

ホノルル市親善訪問

実施報告書

令和6年12月10日(火)～12月14日(土)

渋谷区議会

目次

はじめに	1
訪問団一覧	2
全体行程	3
詳細報告	4 – 12
まとめ	13

はじめに

令和6年5月31日、渋谷区と米国ハワイ州ホノルル市は姉妹都市連携に関する協定を締結しました。相互の交流を深めることにより友好関係を築き、観光、文化、教育、スポーツ、環境等の各分野における知識及び経験の相互の交換・共有を図り、両都市の発展に寄与することを目的としています。

目的達成のためには、上記の各分野において区民の皆様がホノルルを身近に感じ、交流を深めていくための具体的な施策を渋谷区に提案する必要があると考え、区が講じるべき今後の取り組みを明確にするための調査を目的として、この度、親善交流として区職員とともに訪問団を結成し現地を訪問をいたしました。

以下、報告するとともに現地での成果を渋谷区職員と共有し、区政に反映することで区民の皆様にとって有意義な両都市間の連携となるよう努めてまいります。

令和7年1月

渋谷区議会議員

丸山高司

岡田麻理

中村豪志

訪問団一覧

No.	氏名	フリガナ	所属・役職
1	松澤 香	マツザワ カオル	渋谷副区長
2	丸山 高司	マルヤマ タカシ	渋谷区議会議長
3	中村 豪志	ナカムラ タケシ	渋谷区議会
4	岡田 麻理	オカダ マリ	渋谷区議会
5	宮本 安芸子	ミヤモト アキコ	産業観光文化部 産業観光文化部長
6	加藤 博是	カトウ ヒロシ	産業観光文化部 産業観光課長
7	中嶋 哲也	ナカジマ テツヤ	産業観光文化部 文化振興課長
8	漆館 莉恵	ウルシダテ リエ	産業観光文化部 文化振興課交流推進係 主事

東京商工会議所渋谷支部、渋谷区観光協会、株式会社やまと から計14名が同行

全体行程

日程：令和6年12月10日～12月14日

ホノルル市親善訪問日程表（時間はすべて現地時間）

月日		行程	宿泊・食事
12月10日	火	21:55 羽田発 09:40 ホノルル空港着 13:30-14:30 ハワイ日本文化センター視察 14:30-15:30 ホノルル日本人商工会議所との面談 17:30-19:30 ホノルル市・市議会・関係者との交流会	ホノルル
12月11日	水	10:30-11:30 ブランジャルディ市長との会談（表敬訪問） 14:00-15:30 サステナブルツーリズムセミナー受講 16:00-17:00 ピックルボール講習 18:00 Honolulu Sister City Foundation主催夕食会 ※ホノルル市役所、ホノルル市議会メンバー参加	ホノルル
12月12日	木	10:00-12:00 現地中学校訪問（Ewa Makai Middle school） 13:30-14:00 ホノルル市議会訪問 16:00-17:00 ホノルル市役所にて面談（区職員実務者会議） 19:30-20:50 シルク・ドゥ・ソレイユ公演（ハワイオリジナル）視察	ホノルル
12月13日	金	11:30 ホノルル発	機内
12月14日	土	15:55 羽田着	

1. Japanese Cultural Center of Hawaii (ハワイ日本文化センター)

<p>日時</p>	<p>12月10日(火) 13:30 - 14:30</p>
<p>参加者・同席者</p>	<p>【同席者】 Vince M. Okada (Ph.D. MPPM, Hawai'i Pacific University) 東京商工会議所渋谷支部、渋谷区観光協会、株式会社やまと 計14名、ハワイ州観光局 2名</p>
<p>目的</p>	<p>姉妹都市提携の実効性を伴う事業の円滑な遂行に努めるため、日本とホノルル(ハワイとの日系人移住の歴史と関わり)について理解をすること</p>
<p>内容</p>	<p> ■ タイムスケジュール 13:30~14:15 館内展示のガイドツアー 14:15~14:25 質疑応答 14:25~14:30 記念品交換、写真撮影 </p> <p> ■ 概要 日系人の歴史と文化的遺産を残す目的で開設され、日本から最初の移民がハワイを訪れてから150年余りにわたる歴史を順路に従って追う構成となっているセンター内部についてHawai'i Pacific University Okada教授から詳細説明を受けた。 </p> <p> ■ 内容 先代の移民に敬意を込めて「おかげさまで / I am what I am because of you」と名付けられた展示スペースでは、年代順に並べられた写真や年表パネルのほか、自宅や学校など当時の生活環境が再現された展示などが数多くあった。 「元年者(がねんもの)」といわれる日本からの最初の移民は1868年。砂糖とパイナップル産業の労働者として多数の日本人がハワイに移住を始めた。毎日の労働環境は過酷を極めたが、日本で日給10円の時代、日給216円を稼ぐことで、子どもたちがより良い生活ができるようにと耐え忍んだ歴史がよく理解できた。本格的に移民が増えたのは1885年からであった。その後日本に帰国したり、アメリカ本土に移住した労働者もいたが、ハワイに残った日系移民は独自のコミュニティを形成し、日々の生活の中でその価値観や習慣を伝承していった。 太平洋戦争時には、自身のアイデンティティの葛藤に悩みながらもハワイの地で戦った日系人も多く、そのような時代を経て今の平和なハワイの生活が次世代の子孫に受け継がれていることを学んだ。質疑では、第二次世界大戦中の米国との関係、他国の日系人移民との比較、また、渋谷区との姉妹都市締結に関する認知度など多岐にわたる内容について触れた。 </p> <p> 「おかげさまで」「義理」「人情」「感謝」「忠義」「我慢」「仕方がない」など、日系人の移民たちが大切にしてきた言葉が刻まれ、歴史的背景に基づく教えや当時の苦勞が伺えたのとともに、我が国の心が日系人を通してハワイでも同じように根付いていると感じた。現在、その時代に移住した1世から数えて4.5世の日系人が多くハワイに在住していることから、多くの事業が共通の感性のもと、理解を得られやすく、確実に実現できるものと感じた。日系人の歴史を知るとは、ハワイにおいて交流、ビジネス、等を実施する上で重要なことであると考えていたが、その通りであった。今回の親善訪問の最初の行程として、ハワイにおける日系移民の歴史について学んだことで、ハワイと日本との関係について理解度を深めることにも繋がり、実際に日系人でもあるガイドの実体験も交えてお話を伺うことができたことも貴重な機会となった。 </p> <p> ■ 課題と今後のアクション 今後、ホノルル市とさらに関係性を築いていく上で、渋谷に住む我々がハワイの日系人の歴史について学び理解していくことは重要であると考え。渋谷区でも、日系移民の歴史を学ぶことができるようパネル展の実施等を行っていきたいと考える。また、盆踊り等は今もハワイで楽しまれているとすることで、盆踊りやフラダンスは交流手段として早急に促進すべきと考える。 </p>



2. Honolulu Japanese Chamber of Commerce (ホノルル日本人商工会議所、HJCC) 面談

<p>日時</p>	<p>12月10日（火） 14:30 - 15:30</p>	
<p>参加者・同席者</p>	<p>【参加者】 ホノルル日本人商工会議所 会頭 中本マーク (Sodexo (フードサービス・施設管理) バイスプレジデント) 前会頭 照屋スティーブン 専務理事 平田梨花 (ファーストハワイアンバンクバイスプレジデント) ハンセンみゆき ホノルル市郡 クリシュナ ジャヤラム(副管理部長)</p> <p>東京商工会議所渋谷支部、渋谷区観光協会、株式会社やまと 計14名、ハワイ州観光局 2名</p>	
<p>目的</p>	<p>商工会議所同士の連携による両都市企業のビジネス交流、促進の模索</p>	
<p>内容</p>	<p>■ タイムスケジュール 14:30～14:40 挨拶 14:40～15:25 商工会議所について紹介、議論 15:25～15:30 記念品交換、写真撮影</p> <p>■ 概要 HJCCについて ハワイの中でも大きな日系の組織。もともと存在していたChinatownに日本人コミュニティもあった。伝染病が流行した際に対象エリアを燃やして拡大を防いだため、当地でビジネスしていた日系の人々を救済するため、再興しようとグループが作られたのが発端。一年ごとに会長が変わる。2025年は創立125周年。</p> <p>■ 内容 佐藤会長（東商）から挨拶の後、産業に関する協定を締結したい旨の打診。渋谷栄一の紹介。大企業の会員も中小企業の会員もいる中で、中小企業経営者がつながることが重要だと考えているとの話があった。商工会議所同士、民間同士などのつながりから行政と行政のつながりやほかのものに繋げていけるといとの議論。 HJCCからは、構成員は銀行勤務の会社員が多いこと、最近多いのはハワイで新規にビジネスを始めたいとの相談であることの共有。そのため、Startupや支社設立の際にコンタクトすべき現地専門家リストを作成してサポートしている。具体的な交流案としては、JTJの企画するJapan Festivalはどうか（渋谷区は常設が良い）との提案があった。姉妹商工会議所（茅ヶ崎、広島など）は出店をしているとの話。広島商工会議所とは人材交流（Exchange program）も実施している。9月にハワイから広島に（会社員が多い；5名）、来年5月に広島からハワイに（自営業が多いと思われる）訪問団が来る予定。広島以外の都市とも広げていきたい。 大西会長からは、商売、産業話について具体的に連携をしたい。子どもたちの交流（交換留学含）もしたいし、ヒトとモノ両方の交流と振興が必要。土産の相互拡大も視野に検討をしたいとの話があった。また、同行した会員からは、日本人がハワイの銀行口座を持つことはできるが、現地に住んでいる人や法人登記がある法人でなければ、アメリカ本土に送金ができないという制約がある点を改善、もしくはハワイの商工会議所としてサポートしてもらえないかという具体的相談もあった。小池事務局長（観光協会）からは、マアモアハワイを学びに来た。その中で、観光客の「マナーアップ」について協業をしたい。また、アートクリエイターが発表の場（販売の場）がないことから、その場としてハワイでコンセプトショップをする等の活動をしたいとのことであった。</p> <p>■ 課題と今後のアクション 先方商工会議所メンバーは銀行勤務の会社員が多く、東商側は中小企業の経営者が多いことから、交流のみを目的とするのではなく、東商所属会員企業がハワイにおいてビジネス展開する際には銀行のサポートを受けやすくなる可能性を感じたが、企業経営者同士の交流という点については、別の団体（日米協会）等との交流が必要と考える。「姉妹商工会議所」としての連携を見据えて、情報交換をしながら互いに助け合える関係を築いていきたい意向を双方で確認した。</p>	



3. ブランジャルディホノルル市長との会談（表敬訪問）

<p>日時</p>	<p>12月11日（水） 10:30 - 11:30</p>	
<p>参加者・同席者</p>	<p>【参加者】 ホノルル市役所 ・Rick Blangiardi（市長） ・Krishna F. Jayaram（副管理部長） ・Ka’ili Trask O’Connell (Executive Director, Office of Culture and the Arts) ・Saunoi Amelie (Office of Culture and the Arts) 【同席者】 東京商工会議所渋谷支部、渋谷区観光協会、株式会社やまと 計13名、ハワイ州観光局 3名</p>	
<p>目的</p>	<p>市長との意見交換により、具体的な連携策について議論する</p>	
<p>内容</p>	<p>■スケジュール 10:30-10:45 挨拶 10:45-11:25 意見交換など 11:25-11:30 記念品交換、写真撮影</p> <p>■概要 1928年に建設されたホノルル市庁舎は、歴史ある建物で、ダウンタウンに位置し、地域のシンボルとして親しまれている。訪れた時期はクリスマスシーズンで、一階ホールに各課がそれぞれ手掛けたクリスマスデコレーションが施され、子どもたちや市民が見学に訪れ、庁舎全体が活気とエネルギーに満ちており、ホノルル市庁舎の魅力を体感する機会となった。 また、ブランジャルディ市長は12月10日の選挙で2期目の当選を果たし、来年1月から新たな任期がスタートする。市長は渋谷区訪問団一同を歓迎し、今後の姉妹都市交流について意見を交換をした。</p> <p>■内容 渋谷区側からは、5月の協定締結以降に行われた交流活動として、ハワイ大学女子バスケットボール部による小学生クリニックや、渋谷区内学校でのハワイメニュー給食の提供、学生間のホームステイ交流、渋谷区くみん広場での姉妹都市PR活動等が報告された。これにより、渋谷区民がホノルルを身近に感じられるようになり、交流が始まっていることを共有した。今後の取り組みについて、以下の提案が話し合われた。文化交流としてシブヤフォントとの連携でホノルルフォントの作成、スポーツ交流ではホノルルに180以上のコートがあるピックルボールを通じた世代を超えた交流の可能性、地域交流としての「リトルシブヤ」や「リトルホノルル」構想、また学校交流についても前向きな反応があり、直接顔を合わせてのやりとりで色々なアイデアが出され、先方の意欲も実感した。</p> <p>■今後のアクション 渋谷区とホノルル市間での具体的な交流の実現のため、今回の意見交換を通じて検討可能な事項として以下の点を挙げる。 ・ピックルボールやフラなどを通じ、世代を超えたスポーツ・文化交流を推進する ・両都市の商店街や交差点を活用して賑わいをつくる（ホノルルに「シブヤストリート」や「シブヤスクランブル」、渋谷に「ホノルルストリート」と名付ける場所を設け、それぞれにゆかりのある店舗による賑わいをつくることで、区民や市民が互いの都市を身近に感じることができる交流を目指す） ・シブヤフォントとの連携で「ホノルルフォント」の作成や「シブヤラブハチ」のホノルルバージョンを作成し、両都市のお土産として活用する ・学校交流についてはすでに交流が始まっている原宿外苑中学校の生徒とホノルル市の中学生との交流を拡充する</p>	

4. サステナブルツーリズム講義

<p>日時</p>	<p>12月11日（水） 14:00 - 15:30</p>
<p>参加者・同席者</p>	<p>【参加者】 ・Daniel Nahoopii ハワイ州観光局局长兼最高責任者 ・James Kunane Tokioka ハワイ州産業経済開発観光局局长 ・ミツエ ヴァーレイ ハワイ州観光局日本支局长 ・樽井礼 ハワイ大学マノア校経済学科 教授・学科長、社会科学部 国際連携担当顧問 【同席者】 東京商工会議所渋谷支部、渋谷区観光協会 計10名</p>
<p>目的</p>	<p>ハワイ（ホノルル）と渋谷区の共通課題であるオーバーツーリズムと環境保存の対応方法について知見を得ること、姉妹都市提携を契機に今後両都市がとるべきアクションについて道筋をつけること。</p>
<p>内容</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>■ スケジュール 14:00-14:15 挨拶 14:15-15:15 セミナー 15:15-15:25 質疑応答 15:25-15:30 記念品贈呈</p> <p>■ 概要 冒頭、ハワイ州観光局局长兼最高責任者のNahoopii氏およびハワイ州産業経済開発観光局局长のTokioka氏から挨拶があり、その後、以下2点についてそれぞれ講義と質疑応答がされた。 ①ハワイ観光戦略について（ハワイ州観光局 ミツエ ヴァーレイ氏） ②観光と環境について（ハワイ大学 樽井教授）</p> <p>■ 内容 ①ハワイ観光戦略について Hawaii Tourism Authority（HTA）が地元Communityとの対話のみならず、公共機関との交渉等も担当し、事業のKPIは、自然保全、文化継承、コミュニティリレーション、ブランドマーケティング。</p> <p>KPIの一つに地元住民の観光産業に対する理解度や満足度を設定しており、その中で観光客の大幅増加に伴う地元住民の満足度低下やコロナ禍の状況を機に、経済・観光・資源のバランスを保つため「再生型観光」としてブランディングからマネジメントへ、プロモーションからエデュケーションへの方針転換を行ってきた。</p> <p>オーバーツーリズム対策としては、以下対策を講じて地元住民と観光客双方の満足度を高めている。 ・観光地の入場時間/料金を設定したオンライン予約導入（入場者数コントロールによる混雑緩和） ・ホテル宿泊税や入場料を設定（コミュニティ団体への助成プログラム実施とごみ収集の原資にする） ・観光客向け料金を設定（地元住民は無料など）</p> <p>ハワイのホテル宿泊税（TAT）は1254億円（8億ドル）TATは今後13.25%に。 上記のコミュニティ団体への助成はこのTAT収入から約10億円程度。 キュレーター認証制度（申請企業174社、認定62社）、評価基準は多数ある</p> <p>②樽井教授によるオーバーツーリズムに関する講義 観光スポットの有料化や予約制度、混雑時の分散施策などに関連したプレゼンテーションが行われた。</p> <p>観光の量と質のバランスを考える先に、観光マーケティングから以下のような観光マネジメントに移行することを考える必要がある。</p> </div> <div style="width: 45%; text-align: center;">  </div> </div>

4. サステナブルツーリズム講義（続）

- 入場者数：ダイヤモンドヘッドの入場者数の制限をする際、入場料の支払いにも列ができるため、オンライン予約をすることにより入場者数コントロール+混雑緩和が実現する。Green Taxのコンセプトも議論されている。ハナウマ湾でもオンラインシステムを導入。予約のない人は6:45から9:00までの間に入らないといけない。
- 価格：Priceを高く（25ドル）しても枠がすぐ埋まることから、ニーズがある場合には価格設定によるコントロールも重要な手段。
- 環境：自然保全についてEntranceで全員にビデオ+Education Program

混雑の種類と対策の違い

Beaches/National Parksは比較的やりやすい
Roads/Citiesは？

例) New Yorkの混雑課徴金（2025年1月から）

Londonの混雑課徴金制度は効果が出ている

- ・ 混雑が深刻な問題であった
- ・ 他の交通機関が充実している（地下鉄やバス、タクシー
- ・ ゾーニングしやすい地理的要件
- ・ 政治的リーダーシップ

昼間人口があるところ



内容

災害対応・復興

昨年のマウイ島の火事のタイミングでのコントロール、リスクマネジメントは大変参考になる。ハンドブックの作成と配布をしている。

■ 課題と今後のアクション

渋谷区でもツーリズム関連の対策を実現できるように以下質疑応答を踏まえ渋谷区において実践すべき部分を検討する。

- ・ごみ対策について、リゾートエリアのごみがないのは、毎朝行政が費用を出し清掃しているから。
- ・災害に対する外国人対応は、ラジオやニュースでの情報伝達、連携、Social Mediaを活用。
- ・HTAの役割は、ホノルル固有のCommunity Stewardship。Action Plan 作成。
- ・コミュニティと観光客双方の満足度を上げるためのコントロールについては、Resourceの提供を地元にする。エコシステムに地元がしっかり入ることを可視化する。
- ・路上飲酒禁止をどう啓発するかについては罰金が効果的であると考えている。
- ・禁止行為やマナーについて、旅行前に旅行者に伝達、SNS含めあらゆる手段を講じることは有効
- ・日本では富士山の入山料議論などがハワイの戦略に近いのではないか。

5. 現地中学校訪問（Ewa Makai Middle School）

<p>日時</p>	<p>12月12日（木） 10:00 - 12:00</p>
<p>参加者・同席者</p>	<p>【参加者】 ・Kim Sanders(ハワイ州立エバ・マカイ中学校校長) ・Judy Nagasako(ハワイ州教育局 戦略革新パフォーマンス部教育スペシャリスト) ・長谷部真奈美(元渋谷区民ホノルル市在住フリーアナウンサー)</p>
<p>目的</p>	<p>ハワイの教育現場を視察し、学びを渋谷区の教育環境に活かすとともに、今後の学校間交流の可能性を見出すため。</p>
<p>内容</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>■ 概要 ホノルル市役所とハワイ州教育局の協力により、ハワイ州立Ewa Makai Middle Schoolを訪問した。ハワイの公立校は全てハワイ州の管轄となり、学校方針やカリキュラム等は学校長の権限で決定できることもあって、学校によって特色が異なっている。同校は渋谷区立原宿外苑中学校との交流を行っており、教育内容、特別支援教育の取り組みは非常に印象的だった。</p> <p>■ 内容 【学校概要と特色】 Ewa Makai Middle Schoolは2010年創立の中学校で、対象学年は6～8年生（日本では小学6年生から中学2年生）、生徒数は約1250名。広大な敷地に1階建ての校舎が広がり、教師やカウンセラーなど職員が自転車で移動するユニークな環境が整っていた。同校は基礎科目と20種類以上の選択科目で構成されたカリキュラムを持ち、STEM（科学、技術、工学、数学）教育に積極的に取り組んでおり、子どもたちのリクエストを元に多様な選択教科が用意されている。また、特別支援教育にも力を入れている。校舎内には生徒たちが獲得した数多くの賞が展示されており、地域や全米で高い評価を受けていることがうかがえた。生徒たちは「Ewa Makai」のロゴ入りTシャツを着用し、誇らしげな様子で授業を受けている姿が印象的だった。</p> <p>【多彩なカリキュラムと教育内容】 基礎4科目（数学、科学、社会、英語）に加え、選択科目にはロボット工学、ドローン、航空学、医療、eスポーツ、ダンス、ファッションデザイン、ガーデニング、音楽、料理、技術など、多様な分野が含まれていた。特にドローンの授業では、大小さまざまなドローンの操作だけでなく、統計学やデータ分析も学んでいた。また、ロボット工学では水中ロボット製作や大会参加を通じ、生徒の探究心を育てていた。音楽やダンスなどの文化的教育も充実し、ハワイの伝統文化に触れる学びが提供されていた。</p> <p>【特別支援教育】 特別支援が必要な生徒は約120名在籍しており、4つのクラスに分けて支援が行われている。授業は特別支援クラスでの学びと通常クラスとのインクルーシブな学びが選択可能で、アートや体育、ガーデニングといった選択科目やクラブ活動を通じて交流が促進されていた。また、リーダーシッププログラムでは、通常級の生徒がトレーニングを受け、特別支援教育のサポート役を担うサポート制度が導入されている。さらに、就労支援として校内で簡易カフェの運営を行い、実社会に向けた体験を提供している。</p>

5. 現地中学校訪問 (Ewa Makai Middle School) (続)

内容

【ストレスマネジメントとサポート】

中学生特有のストレスに対応するため、リラクゼーションや触覚、運動、アートを通じて心のケアを行う「ISLAプログラム」を取り入れている。カウンセリングルームにはそれぞれのプログラムに対応する専用スペースがあり、これらプログラムを通じて、コミュニケーション、共感力、怒りや不安のコントロール、ストレスマネジメントなどのスキルを学ぶ。このプログラムの導入後、生徒たちの様子が落ち着くなど、大きな効果があった。

【特色ある施設】

「Gathering Place」というスペースでは、生徒同士が自由に語り合える空間や図書コーナーが用意され、学びの場として活用されていた。ドローン専用の練習場やフライトシミュレーター設備、医療設備など、特色ある施設も多く、学びの幅を広げる工夫が随所に見られた。

■ 課題と今後のアクション

今回の訪問を通じ、以下の取り組みを渋谷区においても検討することで、教育環境のさらなる発展が考えられる。

1. **選択科目とSTEM教育**：多彩な選択科目を参考に、今後の「シブヤミライ科」のプログラムに応用できると考える。また「未来の学校づくり」の「特色ある学校づくり」の特色のコンテンツとしても参考となる。まずは教育委員会や学校長などによる現地視察や交流活動を検討されたい。

2. **学校間交流の促進**：Ewa Makai Middleの生徒と渋谷区の生徒が、リアルやオンラインで交流する機会を作る。特別支援学級の生徒もバリアフリーな環境を活用し、交流を促進する。

3. **リーダーシッププログラム**：特別支援学級の支援を担うサポート制度を導入し、生徒たち自身がお互いを支え合い、学び合う機会を取り入れる。

4. **ISLAプログラム**：カウンセリングとその場でプログラムを通してストレスマネジメント含むコミュニケーションなどのスキルを学び、大きな効果があった。プログラムについて研究されたい。

■ その他

渋谷区とホノルル市、特別支援教育をめぐる対話のひとつ

学校訪問では、現在ホノルル市に住んでいる方で、以前お子さんが本町学園中学校の特別支援学級に通っていた保護者の方も一緒に参加した。また、実際に娘さんにも会い、ホノルル市の特別支援教育やインクルーシブな取り組みについて話を聞くことができた。

①学校現場：アメリカのIDEA（障がいのある個人教育法）に基づき、各専門家が連携し、細やかな個別支援計画が策定され、授業科目、時間配分、支援員など合理的配慮が整った環境であること。②地域社会におけるインクルーシブな取り組み：地域行事やスポーツ教室などにおいては障がい者や外国人へのサポート体制が整い、当たり前に参加できる仕組みが整っている。

学校訪問や対話を通じて得られた取り組みは、渋谷区でも今後活かせる多くの示唆を含んでいた。

6. ホノルル市議会訪問

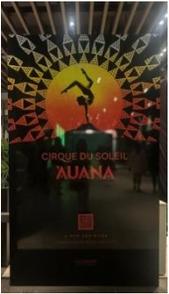
日時	12月12日 (木) 13:30 - 14:00
参加者・同席者	<p>【参加者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Tommy Waters (議長) ・Radiant Cordero (Floor Leader) ・Tyler Dos Santos-Tam (District VI) ・Val Aquino Okimoto (District VIII)
目的	議員同士の交流と連携による今後の円滑な政策実践を目的とする
内容	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>ホノルル市議会からの歓迎を受け、議場にて面談が行われました。今回の親善訪問の内容や、双方における観光対策、渋谷区の産業などについて質疑応答や意見交換が行われ、今後の交流案として、渋谷区議団から、ホノルル市内の道路に「シブヤストリート」と命名、「スクランブル交差点」「ハチ公像」など渋谷を印象づけるものをホノルル市に設置できないか等様々な提案を行った。次期議員のScott Y.Nishimoto氏（12月11日挨拶済）が姉妹都市関連の担当になることも伺い、引き続き情報交換しながら関係を構築して頂くこととした。</p>

7. その他

日時	時間	訪問場所・行程	参加者・同席者
12月10日 (火)	17:30-19:30	ホノルル市・市議会・関係者との交流会 	<p>【参加者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・春田博己 在ホノルル日本国総領事館 首席領事 ・Andy Kawano, Director of Budget and Fiscal Services (ホノルル市役所) ・Nola Miyasaki, Director of Human Resources (ホノルル市役所) ・Eric Takahata, Luke Teramoto, Kimiko Quan (ハワイ州観光局) <p>【同席者】</p> 東京商工会議所渋谷支部、渋谷区観光協会、株式会社やまと 計14名
<p>親善訪問スケジュールの都合上、個別の面談時間を設けることができなかった団体等にお声がけし、一同に会して交流する機会が設けられた。渋谷区とホノルル市のあらゆる分野における交流を深めていく機会となった。</p>			

詳細日程

7. その他 (続)

日時	時間	訪問場所・行程	参加者・同席者
12月11日 (水)	16:00-17:00	ピックルボール講習 	・Shuko Otani (日本ハワイピックルボール協会ハワイ担当)、Ryuji Kasahara夫妻 (コーチ) 
		<p>日本ハワイピックルボール協会の指導のもと、ピックルボール講習を受講した。ピックルボールは、バドミントンと同じコートで、プラスチック製の穴が開いたボールをパドルで打ち合う競技。打ち方から、サーブ、ラリーを練習し、最後は試合形式で体験した。若者から年配の方までできる、簡単に体を動かすことができ、取り組みやすい、スポーツと感じた。プランジャルディ市長もホノルル市でもとても人気になっているスポーツと話されており、今後は渋谷区でも力をいれていくことや、渋谷区との交流大会を企画すること等を話し合った。</p>	
12月11日 (水)	18:00-21:00	Honolulu Sister City Foundation主催夕食会 (会場:Roy's Restaurant) 【参加者】 Honolulu Sister City Foundation (3名) ・ホノルル市役所 (3名) ・ホノルル市議会議員 (3名)	
		<p>ホノルル市議会議員、ホノルル市役所職員、東京でもビジネスを展開する会社経営者との懇親会の機会をいただいた。議会では当日、プラスチックごみの扱いに対する住民約200名の意見陳述があったことに驚くとともに、市民の市政への意識の高さを感じた。両都市における観光、環境分野に関する意見交換とともに、人脈づくりの良い機会となった。</p>	
12月12日 (木)	19:30-20:50	シルク・ドゥ・ソレイユ「AUANA」公演視察 (会場：アウトリガーワイキキビーチコマホテル) 	・ハワイ州観光局1名 ※OUTRIGGER HOSPITALITY GROUPの Danny Ojiri氏 (Vice President)にも開演前にご挨拶。 
		<p>12月からハワイ初のシルク・ドゥ・ソレイユ常設公演が始まるにあたり、今回グランドオープン前に招待を受けて公演視察の機会をいただいた。本公演は、エンターテインメントを通じて、観光客にハワイの文化や伝統への理解を深めてもらい、地元や環境に対する思いやりを持ち敬意を払うことを促していくことも目的としており、伝統的なハワイ文化や音楽とシルク・ドゥ・ソレイユならではのアクロバットパフォーマンスが融合したショーでは、ハワイ語での物語や歴史的な出来事が表現されていた。衣装についてもハワイの地元デザイナーが起用されるなど、ハワイならではの要素や魅力が詰め込まれた公演となっていた。改めてハワイの歴史や文化を学ぶ機会となり、渋谷区との親和性も感じ、渋谷にも生かせるコンテンツであると認識した。</p>	

まとめ

この度の訪問による成果として今後のアクションと可能性を列記します。以下の項目につき渋谷区当局と協議を行い、区政に反映することで区民の皆様にとって有意義な両都市間の提携となるよう努めてまいります。

■今後区と協議すべき取り組み

(観光)

- ・ ツーリズム関連対策を実現できるよう渋谷区において実践すべき施策を検討
 - 観光担当部局が固有のCommunity StewardshipとAction Planを作成し地域団体と共有
 - 地域コミュニティと観光客双方の満足度を上げるための施策
 - 観光客から何らかの原資を調達し、行政がツーリズム関連対策について地元コミュニティを巻き込む
 - 地元コミュニティにResourceの提供をするエコシステムを構築
 - (例) ごみ対策について、リゾートエリアのごみを毎朝行政が費用を出し清掃。費用は、ハワイ州においてはインバウンド顧客からのホテル税収や観光地の入場料収入を充てている。
(日本では富士山の入山料議論などがハワイの戦略に近い)
 - 災害に対する外国人対応は、ラジオやニュースでの情報伝達、連携、Social Mediaを活用
 - 路上飲酒禁止をどう啓発するかについて、世界に倣えば罰金の検討も効果的
 - 禁止行為やマナーについて、旅行前に旅行者に伝達、SNS含めあらゆる手段を講じる
- ・ シブヤフォントと連携し「ホノルルフォント」の作成、「シブヤラブハチ」のホノルルバージョン作成し土産に活用

(産業)

- ・ 両都市の商工会議所の姉妹会議所連携を見据え、互いに助け合える関係を構築する
- ・ 両都市の商店街や交差点を活用して賑わいをつくる
ホノルルに「シバヤストリート」や「シバヤスクランブル」、渋谷に「ホノルルストリート」と名付ける場所を設け、それぞれにゆかりのある店舗による賑わいをつくることで、区民や市民が互いの都市を身近に感じることができる交流を目指す

(文化・スポーツ)

- ・ ピックルボールやフラなどを通じ、世代を超えたスポーツ・文化交流を推進する
- ・ ハワイの日系移民の歴史を学ぶことができるようパネル展の実施等を行う
- ・ 盆踊り、フラダンス、チア等の相互交流

(教育)

- ・ 多彩な選択科目やSTEM教育を参考に、今後の「シブヤミライ科」や「未来の学校づくり」の「特色ある学校づくり」の特色のコンテンツとして参考となる。教育委員会や学校長による訪問や交流を目指す。
- ・ ホノルル市と渋谷区の生徒同士の交流の推進。特別支援学級の生徒についてもぜひ派遣研修を導入。
- ・ 通常の学級の生徒が特別支援学級の中に入り、互いを理解し合い、支えるサポート制度の導入
- ・ カウンセリングとストレスマネジメント含むコミュニケーションなどのスキルを学ぶISLAプログラムの研究、導入。

(インクルーシブな取り組み)

- ・ 子ども向け教室やユナイテッドのクラブ活動などに、障がいのある子どもたちも自然に参加できるように、申込みの仕組みや事前配慮の導入を目指す。また、介助や語学支援などの体制を構築する。

(全般)

- ・ 渋谷区とホノルル市当局同士の情報共有、人材交流による関係構築
- ・ 渋谷区議会とホノルル市議会議員同士の相互情報共有、人材交流による関係構築

以上

ホノルル市親善訪問実施報告書

令和7年3月発行

編集 渋谷区議会親善訪問団

発行 渋谷区議会事務局